53・リスクと安全（園庭編）

原町幼稚園園長　鶴谷主一（静岡県沼津市）

衝撃だった事故

マガジン50号から３回連続で**「子どもが育つ園庭」**というレポートを書いてきた。それだけに、この事故のニュースは人事とは思えなかった。

ゴールデンウイーク前の2023年５月２日、埼玉県のなずなの森保育園で３歳児の首にロープが巻き付き意識不明で発見されたという事故があったと報道され、衝撃を受けながらネットニュースを検索した。（この原稿を書いている5月末現在、男の子の意識が回復したというニュースがあり、心底ホッとした。･･･ただ詳細はまだ報道されていない。）

男児が負傷した土山＝2日午後5時半ごろ、埼玉県久喜市栗橋東

埼玉新聞WEB版　5/3掲載より

事故発生時の報道によると、土を盛られたつき山でロープが首に絡まってぐったりしている３歳男児を一緒に遊んでいた園児が発見したということだ。
事故原因についてはまだ詳しい報道がないので、**ここからは僕の推測**になる。

報道の内容と写真から推測するに、事故前からつき山にはブルーシートが掛けられていて端がアンカーで留められていたので、子どもたちは山から滑り降りるのを楽しんでいたのだろうか。ロープは頂上にあったデッキに**当日結び付けられた**ということで、頂上まで登る補助具として誰かが結んだ。年少の子どもでもこのロープを伝って山を滑り降りて遊ぶことができるように、良かれと思って設置したのだろう。子どもたちのキャーキャー楽しんでいる声が聞こえてくる楽しい遊び場だったんだろうなあ、と想像する。
男児が何かの拍子で滑って、ロープが首に巻き付いてしまった。なぜ自分で取れなかったのか･･･ブルーシートが滑って身動き取れなくなったか、滑り落ちる衝撃で首が締まってしまってパニックを起こしたか気絶したか･･･。（あくまでも推測です）

直後になずなの森保育園のホームページを見ると、自然豊かな環境の中で子どもを遊ばせ、豊富な樹木や手作り遊具も園庭にあったりしてウチと同じような方針の園で、保護者からの支持も厚い様子がうかがえた。（現在は公開されていません）

すぐに頭をよぎったのは、この事故を知って**「ウチの園は大丈夫か？」**と思う自園の保護者もいて当然だということだ。なずなの森ほど豊かな自然は無いが、園庭の木登りや手作り遊具、無造作に転がっている丸太や、ぶら下がっているロープなどを思い浮かべると、ふつうそう思うだろう。僕自身も同じ思いだ。

事故を受けて行政からは「安全管理を徹底してください！」と文書が届く。
「リスクから学び取る」育ちのために、**楽しくチャレンジできる環境を保障したい！という思いと、安全管理のせめぎ合い**は常に僕の中で戦っている。

新たな木登り場をつくった

まさに事故報道の前日には、園庭の白樫の木が「ちょうどいい具合に登れるような状況になってきたので」登るためのルートを思案していた。

僕が園庭で何か考え事してると、勘のいい年長児がやってきて「こんどはナニつくるの？」と聞いてくる。今回は、難易度の高い木だから、どうやったら子どもたちが登れるのか思案していた。さじ加減は**『自分の力で身体を引き上げられる子どもが、ある程度の緊張感を持って考えながら登って、何度かは失敗し、ついに達成感を味わえる！』**というところを狙う。

木の上でご満悦の3人

ありがたいことに、園長が何かやってるぞ！オモシロいことが始まるのか？と群がってくる子どもたちは身体能力の高い子が多い。さっそく試作したロープをつかんで登ってみてくれる。

子どもが登るルートをさがす様子を見て、どこらへんが難しくて危ない箇所か、つかむ枝の滑りやすさや引っかかる小枝の状況などもつぶさに観察する。落ちたときはどこに落ちたらダメージが少ないか･･･そんなこともあれこれ推測しながらしばらく観察を続けた。そしてロープの長さや位置、結び目を調整し、落下したときに衝突しないように余計なものをどけ、枝を切ったりした。

余談だが、一人の女の子が木から飛び降りるときに、細い枝にズボンが引っかかって派手に破れてしまった(^_^;)。本人は気がついてなかったが、その事をいうとサーッと顔色が曇ってしまった。「お母さんには一緒にごめんねするね」と言って、お迎えの際にお母さんにお詫びしたが笑って「いいですよ」と言ってくれた。ありがたい！こんな保護者の皆さんがいるから、冒険もできるのだ。

年中さんも登れたよ

ある程度完成した木登りロープ。しばらくは子どもたちの様子を観察して、側についていなくても大丈夫と思えたら解禁となるんだけど、今回はちょっと難易度が高いので、自分がその場を離れるときはロープの位置を登りにくく設置し直した。力のある身の軽い子どもしか登れなくなる。**「木登りしたいから！ロープを結びかえて！」**と訴えに来る子が何人もいたが、僕がずっと木の側についているわけにもいかないので「がんばってチャレンジしてみて！」と言って他の仕事に勤しむ。他の保育者にも安易にロープの設定を変えないように言っておく。**力のない子どもが簡単に登れると事故の確率が高まる**ことは園の保育者は共通理解していて、安易に手伝ったりはしない。登れるように力をつけろよ！とエールを送りながら励まし、見守るのだ(^o^)/

園の考えを伝える

ニュースを見て「ウチの園は大丈夫か？」と不安をお持ちの保護者もいるだろうから、５月の連休明けに発行された園便り「はらっぱ」（マガジン28号参照）のコラムに、「原町幼稚園の園庭の手作り遊具や木登りはできる限り検証していますよー、決してイケイケでやってるわけではありませんよー」というアナウンスをした。そして、入園前から説明してあることだけど、リスクに対する園の方針を再度記載した。その後保護者から不安な声が上がることも無く、子どもたちは今まで通りの園庭で毎日遊んでいる。機会をとらえて発信していくことは、表面的な安全だけを追い求めないようにする姿勢を維持する上で大切なことだと考える。

付け足しておくと、**皆がルールを理解して遊ぶことで安全が担保**されている。たとえば、

・すべり台の下から登ってもいいけど上から滑る人がいたらそちらが優先。
・ブランコはどんな乗り方をしてもいいけど、前から人が来たらぶつからないように止める。
・木登りのとき、下に台を置いても手伝ってもらってもいけない。
・かばんを持ったまま園庭で遊ばない。遊具の上に縄跳びやおもちゃは持って上がらない。･･･

など様々なルールがあり、どこにも書いて貼っていないけど、その都度保育者が声を掛けて子どもたちに浸透していくようにしている。**ルールが無ければ安全は担保されない**のだ。

想像力と推測力が予防の要

それでも事故は「まさか」というところで起こる。絶対に起こしてはいけないという意識は常に持っている。そのためには、起こってしまった事故から学び、隠れているハザードを潰していく作業が必要なのは言うまでもない。その作業なしでは、どんなに危険箇所を取り除いて安全と思われる環境を造ったところで「まさか！」の起きる確率を下げることはできないだろう。

埼玉の事故から推測できる落ち度は３つ。（自分達の教訓のために）
一つ目はトラロープを使ったこと。固くて滑るので遊具としては適さないし使わない。

二つ目はブルーシートで滑る環境なのにロープが取り付けてあったこと。**ロープの設置自体が問題なのでは無くその扱いがマズかったと思う。**滑るというのは不測の動きが予想される場所だから、そこにロープを持ち込んだら、必ず大人がついていなければダメだ。そして大人がその場を離れるときはロープも取り外すぐらいの危機管理能力が必要だったのだ。

三つ目は、職員の配置だ。当時は園児34人に保育士６人が園庭に出ていたという。幼児だったら人数的には十分だったと思うが、何人の保育者が危機管理という意識を持っていたのか。意識が低い保育者が何人いても安全は保てない。通常なら危険と思われる箇所に人を配置するのだが、この場合乳児が混じっていたかや園庭の広さなど詳しいことがわからないのでなんとも言えない。
自園でも、日々園庭の危険箇所や配置箇所をチェックすることが必要だ。
とにかく、危機管理能力は、想像力と推測が要になる。

リスクを経験しないリスク

なずなの森は、子どもたちが豊かな自然の中でイキイキと遊んでいるんだろうなと想像できる園だけにほんとうに残念な事故だった。
このような事故が起こると、過剰に対応してしまい、とにかく安全な環境をつくることが目的となってしまうのが昨今の傾向だと感じている。

しかし**子どもたちがリスクに対応する力を身につけるためには、どんな状況が危なくて、そこではどこに注意し、どう行動しなければならないか･･･という経験を重ねることが必須**であり、頭で知るだけでは不十分なのだ。

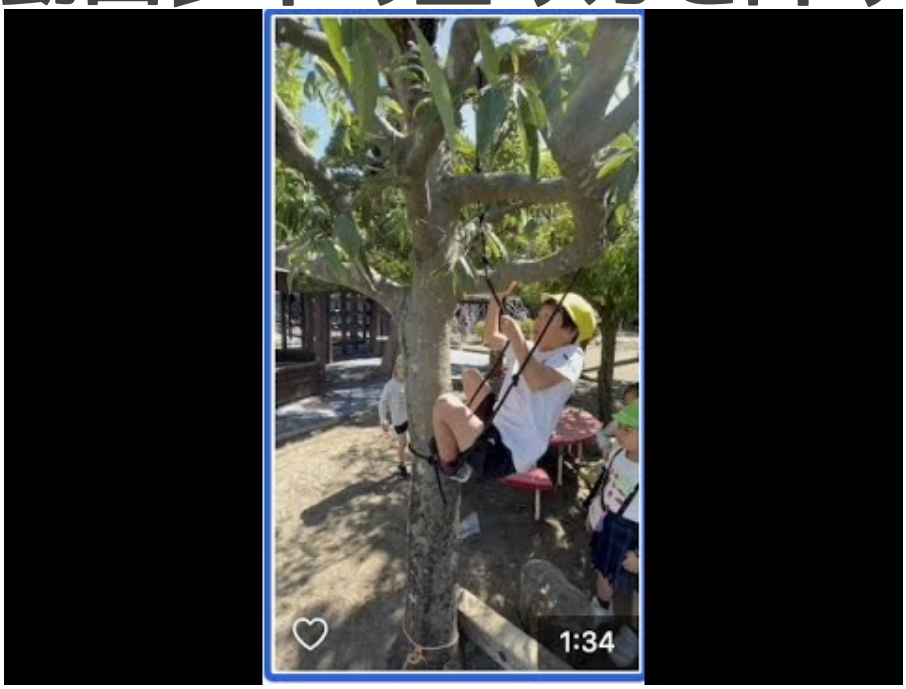
幸い大事には至らなかったが、先日年長児が「オレ、ブランコで両手離せるぜ！」といって実演しようとして落下して痛い思いをした。やってみたけど無理だった･･･もうしない。単純にこの積み重ねが必要なんだと思う。（その子はまたチャレンジするかもしれないけど(^_^;)）

生活の中で小さいリスクに出会わなければ、子どもたちは「知る」ことも無いまま成長して、園や学校という安全な囲いの中から出たときに思わぬ事故に巻き込まれることもあるだろう。夏になると川や海で子どもの溺死事故が毎年報道されるが、そのニュースを聞く度に、子どものときに水遊びで水に注意する経験がなかったのかなあ、と思わずにはいられない。

子どもを育てる我々は**『リスクを経験しないリスク』**があることを認識し、保育者の管理下で子どもたちに必要な経験（危険への小さなチャレンジ）をさせていくことが教育の一つの意味だと考えるけど、この考えが今の世の中に受け入れられるかどうか、確信が持てなくなってきている。

NANA ちゃんの登り方

〔動画〕木の登り方と降り方



動画が再生されないときはURLをブラウザーにコピーして下さい→https://youtu.be/pclpVq12q4s

原町幼稚園　園長　鶴谷主一（62歳）　ＨＰ：http://www.haramachi-ki.ed.jp/

「幼稚園の現場から」ラインナップ

第１号　エピソード（2010.06）
第２号　園児募集の時期（2010.10）
第３号　幼保一体化（2010.12）
第４号　障害児の入園について（2011.03）
第５号　幼稚園の求活（2011.06）
第６号　幼稚園の夏休み（2011.09）
第７号　怪我の対応（2011.12）
第８号　どうする保護者会？（2012.03）
第９号　おやこんぼ（2012.06）
第10号　これは、いじめ？（2012.09）
第11号　イブニング保育（2012.12）
第12号　ことばのカリキュラム（2013.03）
第13号　日除けの作り方（2013.06）
第14号　避難訓練（2013.09）
第15号　子ども子育て支援新制度を考える
第16号　教育実習について（2014.03）
第17号　自由参観（2014.06）
第18号　保護者アナログゲーム大会（2014.09）
第19号　こんな誕生会はいかが？（2014.12）
第20号　ＩＴと幼児教育（2015.03）
第21号　楽しく運動能力アップ（2015.06）
第22号　〔休載〕
第23号　大量に焼き芋を焼く（2015.12）2019
第24号　お話あそび会その１（発表会の意味）
第25号　お話あそび会その２（取り組み実践）
第26号　お話あそび会その３（保護者へ伝える）
第27号　おもちゃのかえっこ（2016.12）
第28号　月刊園便り「はらっぱ」（2017.03）
第29号　石ころギャラリー（2017.06）
第30号　幼稚園の音楽教育（その1・発表会）2017.09
第31号　幼稚園の音楽教育
（その2・こどものうた）2017.12
第32号　幼稚園の音楽教育
（その3・コード奏法）2018.03
第33号　〔休載〕（2018.06）
第34号　働き方改革・一つの指針（2018.09）
第35号　働き方改革って難しい（201812）
第36号　満3歳児保育について（2019.03）
第37号　満3歳児保育・その２（2019.06）
第38号　プールができなくなる！？（2019.09）
第39号　跳び箱（2019.12）
第40号　幼稚園にある便利な道具〈紙を切る〉（2020.03）
第41号　コロナ休園（2020.06）
第42号　コロナ休園から再開へ（2020.09）
第43号　ティーチャーチェンジ（2020.12）
第44号　除菌あれこれやってみた（2021.03）
第45号　マスクと表情（2021.06）
第46号　感染予防と情報発信（2021.09）
第47号　親子ソーラン節（2021.12）
第48号　親子コンサート（2022.03）
第49号　うんちでたー！（2022.06）
第50号　子どもが育つ園庭・その1 木登りとブランコ（2022.09）
第51号　子どもが育つ園庭・その2 砂場（2022.12）
第52号　子どもが育つ園庭・その3 ストライダーとTonka（2023.03）
第53号　リスクと安全・園庭編（2023.06）

▶気になる記事・ご感想質問等ありましたら気軽に連絡ください。✉ office@haramachi-ki.jp